

オンライン「超入門！学級経営セミナー」で出た好意見

第1回分

★セミナーの中で素晴らしいノウハウがたくさん集まりました！学生さんや若手の先生の助けになればと思い、シェアします！

学級目標など、目標を決める際の指導ノウハウ

・保護者を巻き込み一緒に決める。保護者会で保護者にアンケートを取って、その後子どもたちと一緒に目標を決めていた。

★河村コメント：家庭と学校、2箇所ですべて同時に同じ目標に基づく指導が展開できると非常に大きな効果をもたらすだけでなく、学童や公園など、家と学校以外のところでも同様の行動が生じやすくなります。

・学級目標について毎月振り返りシートで振り返っていた。

★河村コメント：目標の原則は「貼りっぱなしNG」で、教師の語りや自己評価など、様々なフィードバックを返してこそ行動に影響するようになります。振り返りのシートを重ねて糊付けし、すぐにでなくても、徐々にでも、目標に近づいているんだという実感が持てるようなフィードバックが返せると、実際に行動にも影響しやすそうですね！

・目標に合う行動が生じた直後と帰りの会で二重の振り返りをした

★河村コメント：行動の直後に好ましいフィードバックがあると、その行動は以降増えて行きます。「直後の振り返り」というのが素晴らしいですね。さらに帰りの会での振り返りを行っているの、友達の前で紹介できるので、他の子の行動にも影響を広げられるかもしれません。ぜひ翌日の朝の会でも「昨日はこんな素晴らしい行いが見られた。今日もいい日になりそうだ」みたいなお話をし、その日の行動を促してみましょう！

・グーグルフォームを使って目標を記入した。その後、全員で目標を共有し、話し合いで決定した。

★河村コメント：目標は「言葉に応じて行動する」という働きを期待するものです。この言葉は、自分で言った言葉、選んだ言葉、尊敬する人の言葉だと、効き目が良くなることが知られています。挙手できずともアプリで入力するなら意見が出せるという子もいますので、意見を出す機会を全員に保証し、さらに子どもたち全員の合意の下で目標を決めた、という素晴らしいノウハウだと思います！

・学級目標は抽象的だけど、行動の具体的な形で子どもに返している。

★河村コメント：学級目標は学校生活全般に影響させるという観点から、ある程度抽象化することが多いと思います。「思いやりの気持ちをもって～」 「努力して～」 というような感じの文言が多いでしょうか。ただ、それだけでは子どもにとって何をすれば良いのか分かりにくいので、行動に反映されにくいことがあります。これは特別支援学級だけでなく、通常学級の高学年、もっと言えば民間企業の職員へのマネジメントでも同様です。そのため、

「どんな場面では、何をする」というように噛み砕いて具体化する、というのは素晴らしい取り組みだと思います。

・目標の振り返りをキャリアパスポートの振り返りとして兼ねていた。

★河村コメント：キャリアパスの良いところは、過去の自分の成長過程が見えるところです。大人がそう意図せずとも、子どもは友達と自分の出来栄を比較して自己評価を行いがちですが、この方法ならばそうではなく過去の自分と比較する方向に指導できそうですね。また、多忙な教育現場では、細かな工夫によって「教師が自分自身の余力をひねり出す」というようなノウハウが必須になります。余力がないと個別対応はできませんからね。このように複数の取り組みを兼ねて一つの活動を行う、というノウハウは、ぜひもっと知りたいです！

・大項目は、職員で話し合って決めた。個人で意識できるものにした。小項目は、児童の意見を集約した。

★河村コメント：特別支援学級の先生のノウハウです。自己決定や自己選択は大切でありつつも、子どもに一定の負荷がかかります。考えられない、選べないという状況で苦悶の表情のまま放置すれば、当然目標はイヤな印象の物になってしまいます。また、特別支援学級においては個別の指導計画との整合性など、配慮すべき点は多岐にわたります。

・目標としては子どもに対して掲げてはいないが「安全に過ごす」「自分のことにまず取り組む」など、実態に対する教員側の目標を共有していた。

★河村コメント：知的障害を伴う児童においては、「大人が提示した言語の内容に応じて行動を変える」ということが難しい子ももちろんいます。このような場合、言葉の内容を吟味するというよりも、行動の直後のフィードバック、つまり「こう行動したら、こうなった」という実際の経験で行動を変えて行きます。この場合、行動の直後の「こうなった」の部分を複数の教師が一貫して与えられるとGOODです。「自分の課題ができたら、先生に褒められた」というような経験を全教師で積みせられるよう、教師側が目標を共有した、という好事例です。

・トラブルが多い年度は毎朝のスライドで学級のきまりを確認していた。”

★河村コメント：トラブルへの転ばぬ先の杖は、使用するか否かは別にして、なるべくたくさん用意すべきです。トラブルが生じる前に防ぐという視点がとても良いですね！

「静かに聞く」指導を行う際ノウハウ

- ・静かになるまで待つ

★河村コメント：シンプルですが、強力な方法ですね。教師の話に興味がある場合、先を聞きたくなりますが、それが喋るとストップしてしまう。静かにしている方が得になる、ということですね。（ただ、話の内容に全然興味がない場合は効かないので、以下の方法をいくつか試してみましょう）

- ・教材をじらして見せる。手遊びや紙芝居などで、子供を引き付けてから、何でも始める。

★河村コメント：教師の話の内容に興味を示さない場合、何かしら子どもが興味のあるものでスタートします。静かになるタイミングをひねり出して称賛の機会を確保できる好事例ですね！

- ・「静かにするという絵」を見せる。子どもに見える形で、聞く時間と話す時間を示す。耳のイラストと手のイラストで視覚的に残るようにする。（言葉の指示だけにしない）

★河村コメント：今は喋っていい時間なのか、静かにすべきなのか、これがわからないことには子どもは反応しようがありません。低～中学年では特にこの種の取り組みが効果的であるクラスは多いと思います。

- ・静かに話を聞いたり、前に注目しないと参加できないゲームをやることで、聞く姿勢の基礎を作る。

★河村コメント：話を静かに聞いてもらうためには「静かにしていたらメリットがあった」という流れを経験させる必要があります。そのメリットとしてゲームを加えるというのは良いアイデアですね！

- ・静かにしている子を褒める

★河村コメント：これも同様に「静かにしていたらメリットがあった」という経験を積ませることができます。さらに、「自分も静かにしていたら褒められるかもしれない」という周囲の子の見込みを作ることでもあります。

- ・質問をする時間は最後とすることで、後で発言をする機会を作る。

★河村コメント：この場合「質問できる」ということがメリットとして働きます。知的好奇心旺盛な子の場合、質問して得られる情報はご褒美や褒め言葉と同様の効果をもたらすことがあるので、「静かにしていたらご褒美がもらえた」というのと同じ効果をもたらす可能性があります。

時間を守ることに関する指導のノウハウ

・チャイム着席ができれば称賛、花丸をつける。花丸が10個たまると週末に20分遊べる。

★河村コメント：「チャイムがなったら遊びをやめて座る」というのは簡単に見えて「遊びをやめる（そして片付け）」という、楽しいものを手放す行動をしなければなりません。座った直後にそれを上回るような嬉しさを与えなければなりませんから、称賛に加えて視覚的に分かりやすい花丸を使い、そして花丸の効き目をサポートする取り組みとして遊べるようにする、というのは素晴らしい取り組みだと思います！

・給食準備の時間を短縮するための方法を自分たちで考え話し合う時間を設けた

★河村コメント：これは行動の前に、行動を引き出すための指導を行った、ということですね。自分が発した言葉は行動に影響しやすいことが知られていますので、話し合いを挟んだのは良い点だと思います。また、給食準備時間を短縮すると自分たちが食べる時間や食後の自由な時間を増やせますので、「話し合って決めたことに応じて行動し、時間を守ったら良い思いができた」という経験を積ませることができますね！

・砂時計・日本1週マラソンカードなどを用いて時間の指導を行った。

★河村コメント：子どもによって「飽き」の生じやすさには差があります。飽きが生じやすい子の場合、普段見ている時計では目が慣れてしまい、効果が薄れることも。この場合、砂時計やタイマー、録音機能付き目覚まし時計に面白い声を吹き込んでおくなど、目新しさでやる気を引き出し、維持する指導が有効なことがあります。また、地図への興味が強い子に、視覚的な評価として日本一周のカードを使ったのも良い点ですね！

・机の上に大付箋。できればシール

★河村コメント：机の上で視覚的なフィードバックを行うことができるため、個別化しやすい方法です。すごーくこだわったカードを作っている先生もいますが、実は私も手返し重視で厚紙の切れっ端や付箋などを使って即興的にフィードバックをすることがあります。